

奈良県指定文化財調査票

調査日	2020 年	8 月	22 日	記入者	久門たつお
調査者名	大谷	垣内	久門	鶴田	

文化財名	荒坂窯跡				
種類	<input checked="" type="checkbox"/> 史跡	<input type="checkbox"/> 名勝	<input type="checkbox"/> 天然記念物	<input type="checkbox"/> 有形民俗文化財	<input type="checkbox"/> その他 ()
指定年月日	1974年(昭和49)3月26日				
所在地	五條市西河内町802				
所有者 管理者	所有者:奈良開発興業(株)、管理者:五條市				
員数	14基(荒坂瓦窯跡群とも呼ばれ、今後さらに増える可能性がある)				
時代区分	7世紀後半				
樹木の場合	(樹木名)			(樹齢)	
案内板の状況	有り(外部に県教委設置分、1号窯施設内に五條ロータリークラブ設置分)				
公開	13基は埋め戻されており、1号窯のみ五條市(文化財課)が希望者に公開				
保存状態	<input type="checkbox"/> 非常に良い	<input type="checkbox"/> 良い	<input type="checkbox"/> 普通	<input checked="" type="checkbox"/> 悪い	<input type="checkbox"/> 非常に悪い
	補足 ()				
当面の課題	窯は半地下式の登り窯。手前が木を燃やす燃焼室、奥に瓦を焼く燃成室の構造で、長さは計約9m。半地下の燃焼室は崩れやすく、現在は採石で埋めて補修している。燃成室を覆う上部の粘土質の土は、かつて樹脂を吹き付けて強度アップしていたが、劣化が進んで表面が剥がれているところもあり、適切な補修が必要と思われる。				
今後の課題	白鳳時代、荒坂窯では飛鳥の川原寺の瓦を焼いた歴史をもつ。荒坂窯跡のある五條市北部の北宇智エリアには貴重な出土品が発見されている古墳が散在する近内古墳群がある。文化財の保存と活用が求められる中、五條市は北宇智エリアで多くの人たちが歴史や文化財に親しめる探訪会を定期的を実施してほしい。				
その他 (由緒など)	荒坂窯跡は現在14基が確認されている。発掘調査は1933年(昭和8)と1972年(昭和47)に行われ、現状保存施設が一番保存状態が良かった1号窯に1972年に設置された。窯の内部などから川原寺跡出土と同じ複弁蓮華文軒丸瓦、重弧(じゅうこ)文軒平瓦や須恵器などが見つかった。この瓦窯群は661年の斉明天皇没後、天智天皇が母斉明の冥福を祈って飛鳥川原宮跡に川原寺を創建した際に稼働したとみられている。				
コメント	瓦窯を設けるには粘土、水、燃料が周辺で確保できることが必要とされる。近くには関屋川が流れ、粘土や火力の強いアカマツも調達できたのだろう。1号窯見学で、11段の階段式の燃成室を目の当たりにして、1350年ほど前にここで優美な文様の瓦が焼かれ、その瓦で葺かれた川原寺の壮麗な壘の情景が脳裏に浮かんだ。貴重な史跡であり、保存策の充実を望みたい。				

奈良県指定文化財調査票(写真)

調査日	2020 年	8 月	22 日	記入者	久門たつお
調査者名	大谷	垣内	久門	鶴田	

文化財名	荒坂窯跡
------	------

荒坂窯跡・1号窯の現状保存施設(東側から)	現状保存施設(北側から)
-----------------------	--------------



1号窯の正面。中央の穴手前が燃焼室

奥の階段部分が瓦などを焼く燃成室



県教委設置の説明板

五條ロータリークラブ設置の説明板

